



コートとり当番担当クラブ

1月	2	月分のコート	美住C
2月	3	月分のコート	思多C
3月	4	月分のコート	本町C

発行責任者 柳 利夫  
 住所 東村山市民荻山町 5-6-26-301  
 Tel. 0423-92-8808  
 編集責任者 川村英明

新年おめでとう そして  
 創立10周年 おめでとう  
 協議会 会長 柳 利夫

新しい年を迎え、心からおよろこび申し上げます。昨年一年間の行事をざっと振り返って見ると、1/4(日)の打ち初めからさる12/27(日)の打ち納めに至る毎週の定期練習、春秋の3回におよぶ指導者教室、春秋の市民大会、市内(太田杯)団体戦、定例の夏季合宿、柏崎市の皆さんを迎えての“第5回太田杯争奪戦”(本戦は雨で中止)、市民大会への選手派遣など、目まぐるしい日程ではありましたが差した事故もなく、むしろ成功裡にいろいろ皆さんの惜みないお力添えにより開催でき、本紙面をお借りし改めてお礼申し上げます。また、このほか昨年の画期的行事として東京都市町村対抗庭球大会が、太田芳郎名誉会長の理解とご好意により優勝杯のご寄贈をいただき“第1回太田杯争奪戦”として位置づけられ、関係諸団体の参加・後援・技賛・技力を得てスタートできたことを特筆しておきたいと思ひます。

私たちの市民テニスが1972年5月3日、最初に“東住クラブ”としてわずか数名の手で創立され、やがて満10周年になろうとしています。さきの東村山市民内外の開催行事を見ても質量ともに発展し、当初は想像もできなかった程の充実した力量を発揮するようになってきました。私たちの仲間としてこの一年間に新しく入ってきた会員数は200名。全体の現勢は四百数十名になりました。私たちが毎週使える市管コート数は現在10面、これを軟式の皆さんと使い分けしているのが現状です。有限な施設に対しテニス志向者の激増しているなかでのクラブ運営、止むを得ない措置として入会希望者を無条件に受け入れていくことが極めて困難になってきました。今後は一方にたくさん入会希望者が待っていることを十分念頭におきながら対応していかなければなりません。

先にも言いましたが、きたる5月3日には、創立満10周年になります。いろいろなものに節々があります。市民テニスの10周年は私たちの曲りかじりで“折り返し点”だと思います。組織運営について一層の充実を図っていただくため皆さんの全面的な参画が必要

# 賀 正

太田芳郎名誉会長より市民テの皆さんに年賀のご挨拶をいただきましたのでご紹介いたします。先生のご健康とご活躍を会員一同心からお祈り致します。

御健やかに、希望に充ちた新年をお迎えのことと存じます。

私は、この一月十一日が八十二回目の誕生日、家内ももなく満七十九歳になります。昨年、東京都市町村庭球連盟が結成され、東京都市長会・町村長会、読売・報知両新聞社後援の第一回チーム対抗太田杯大会が、八月初旬、十七市参加の下に行われました。この他に太田杯は、郷里新潟県庭球連盟、同中学校連盟、東村山市民連盟の各男子女子種目、新潟県壮年と北軽井沢の大会、及び、東村山市民スポーツ姉妹市の柏崎市との対抗戦、合せて十種目で戦われることは、身に余る光栄であります。現在、試合には参加しませんが、東村山では、厳冬でも日曜日はいつもコートに出かけ、北軽井沢滞在中は、毎早朝五時半、自からハンドドルを握って、冷気爽やかな山峡のコート迄ドライブ、八時頃迄土地の人々とテニスを楽しみます。八十二歳になってもコートに立ち、母校筑波大学の夏期合宿を訪れて学生時代の昔に帰えり、特に、十種目もの大会に「太田杯」を飾って頂けることは、全く幸なことでありまして、「庭球人、われ生けるしるしあり」が年頭の所感、家内と共に、皆さんの変らぬ御厚情に対し、心から感謝して居ります。

昭和五十七年一月一日

太田芳郎・妻 文子

〒189 東京都東村山市民荻山町三二二二  
 電話 〇四二三一三九三二二九八一

〈編集部より〉

今年の新企画の一つとして太田先生の「テニス随想」を一口話し風に毎号連載する予定です。豊かな人生経験から湧き出る先生のお話しにご期待下さい。(連載開始月は追ってお知らせします)





(前ページの続き)

です。入会時にした私たちクラブの約束事と“初心”を是非とも思い出していたとき「相手＝仲間に対する気配りを通じ」いつも気持ちの良いテニスを介しての“人間付き合い”を広げ、深めていたがきたいと思ひます。

別途“10周年記念行事”を考え、そのための《企画委員会》を発足させたいと思ひます。(詳細は後日コトで発表します)。

「こんなことがしたい、こんなことをしたら」、など、皆さんの積極的なご意見と格別なお力添えを心からお願ひ申し上げて新春の挨拶に代えさせていただきます。

A HAPPY NEW YEAR!

壮年ダブルスに  
優勝させて貰って



本町クラブ 米沢行夫

市民テの皆さん、明けましておめでとうござひます。石の上にも3年と云う諺がありますか、本当にその通りだと思ひます。3年以上やらなければ、何んの競技も上達は無いつくづく悟りました。

人間を若い人達よりちよと長くやると、短い期間に上達しようなどと、虫の良いことを考え本当に反省に居り、テニスを始めて4年目、春秋の大会に出ては負け、勝つことの難かしさが、出る度に思ひ知らされました。段々良くなっているのはわかるのですが、西城・市川組に思ひようにやられ、赤子の手をひねるという事が、ひたりする位でした。

横山さんと、毎週日曜日は早朝より練習試合をやり、試合後は反省が多かつたと思ひます。(こんな事では、又西城組に負けだ等と) 練習試合は、市民テの中では倍位やつたと思ひます。最初の頃はたゞ強打たけで相手をつぶせると思ひて居りましたが、本井教室を受けさせて貰ひ、大変な諷刺であることに気付きました。普段の練習の時に、相手の手のとまがたい所へ、又相手をすこしでも動かす打ち方を、武谷さんはじめ、コーチの方からいつも言われるのですが、なかなか痛くまでは2人の技術が上がって居なかつたので、敗戦につなかつたのだと思ひます。

本井先生のボレーのすばらしさが、私の打ち方に変化を与えました。相手が待っている所へ、どんな速球も通用しないという事でした。市民テに入り、4年目で優勝できた事は、①球出しをして貰ひ、テニスのテから習ひ、又高度な技術まで教えて貰ったこと、

②水曜日に、阿辺川、浦川、筑紫さん御三方に大変しごかれまして、最初の頃は、負けっぱなしで、最近やつた勝率が良くなりなりました。③太田先生と、昼食時等のひと言が、大変はげみになりました。④クラブ内には口と技の好敵手が沢山居り、その人たちに勝率が良くなければ、大会でも大して勝てないこと。

今年の大会は、また挑戦者のつもりで2人で頑張る、練習に力を入れたと思ひます。もう一回位、心底より、笑いたいものです。

市民テの皆さん、武谷さん、長井さん、吉永さんと名コーチが大勢いらっしゃいます。まじめにやれば、あなたも今年は心底より笑えますよ。試合中は笑わない。勝つて大笑い。そのためには練習練習、今年もお互いに頑張りますよ。



年のはじめに思うこと

本町クラブ 菅谷恵美子

それは数限りない幸せを思うのですか、今年は私にとって勝負の年、一というより何かをやらなくてはと思ひ年なのです。この世に生を受けて20+α年、今年くらい希望をもって迎える年はありません。いろいろな意味でのスタートがあると思ひます。

まずは仕事。保母という私にとってやりがいのある職業にめぐり逢い働ける職場を得られたということは、今までにない新しいスタートなのです。一応目標にしてきた最終ゴールにたどりつき、今また次の新しい目標に向けて一歩を踏みだそうとしています。今年は、せう保母という職業を改めて向ひ保育とはどんなものなのか? なんてむずかしい問題に取り組んでゆきたいと思ひています。(ワーカッコイイ)

次にテニス。テニス歴4年目に入ってしまった。この3年間、いったい私は何をやってきたのか!! コートに行くたびに自己嫌悪と腐っているこの頃です。そこで今年は初心にもどってイチからやり直そうと思ひます。身についてしまった悪習癖をせむくひして、新たにフォームを自分のものにしたいと思ひています。自分の納得のいくボールを一球でも多くしたいのです。そのためには、-----もちろん練習でしょうね。がんばります。今年もよろしくお願ひします。



今年もよろしくおねがひいたします  
広報部 一岡